

校報 まきがね

恵那西中学校だより 第3号
令和8年 5月25日(月) 発行



「地域で期待される西中生」

校長 工藤 博也

先日、「お田植え祭り」に参加しました。飛鳥時代に恵那産の米が朝廷に献上されていたことにちなんだお祭りで、地域の歴史や文化の継承、地域資源の魅力発信を目的として開催されています。神事が行われた後、西中の1年生3名が、白い着物に赤のたすきを身につけ、菅笠をかぶった早乙女姿で水田に入り、苗を植えました。衣装も含め、学校とはまた一味違った生き生きとした表情が印象的で、地域の一員として自ら役割を果たそうとする姿勢を感じました。会の終了後には、実行委員の方から「お祭りの歴史的な重みも理解し、とても積極的に参加してくれてうれしい」とお礼の言葉をいただきました。

また、5月には三郷、武並、長島の各地区で青少年育成町民会議に出席しました。その中で、各地域が計画したイベントに、中学生のボランティアとしてぜひ参加してほしいというお話を多くいただきました。これは、地域からの信頼と大きな期待の表れであると受け止めています。ボランティア活動は、社会貢献を通してコミュニケーション能力や思いやりの心を養い、自己肯定感を高める貴重な社会経験となります。また、人との関わりの中で自分の成長を実感できる大切な機会にもなります。春のイベントを皮切りに、これからさらに西中生への依頼が増えていくと思いますが、自分を高めるチャンスと捉え、積極的に取り組んでほしいと思います。

地域の方々は、それぞれのよさを生かして恵那市を盛り上げようと、郷土愛をもって取り組んでみえます。そして、中学生にそのようなまちづくりへの参画を強く期待しています。参画とは、計画段階から加わり、主体的に関わることです。みなさんが学校で大切にしている「自分から」という意識が、まさにそれにあたります。ボランティアに参加する機会があれば、指示を待つのではなく、活動の目的を正しく理解し、自ら考え、主体的に行動することをぜひ実践してみてください。主催の方々も、中学生のそうした姿に大きな期待を寄せています。

■■■第1回ふれ愛週間(5月19日～21日)■■■



登校の様子を見守り、生徒とあいさつを交わす「ふれ愛週間」について、本年度は全保護者の皆様にご案内し、第1回目の実施にご協力いただきありがとうございました。

恥ずかしそうに通る生徒もいましたが、立ち止まってしっかりとあいさつをする生徒、また多くの方に何度もあいさつをする生徒の姿も見られました。あいさつは、人と人をつなぐ最初のコミュニケーションです。さわやかなあいさつができることは、社会で信頼される大切な力でもあります。今回の「ふれ愛週間」をきっかけに、家庭・地域・学校が一緒になって、子どもたちのあいさつの輪を広げていければと思います。